

評価・判断をするトレーニング

基準の意識化（スケールと閾値）

情報収集や情報整理ができて「では、どうするのか」ということになると、「どうであれば良い」という基準がハッキリしていないと、その時々気分によって言うことが変わってしまいます。そうなるコミュニケーションの相手の信頼を得ることはできません。ブレない自分軸を持つためにも基準を決めることは意味があるのです。

<ワークの狙い>

このワークは、ものごとの判断基準をどのように定めるかの概要を学び、決断のときにそれを意識できるようになることを狙いとします。

1. 基準設定の考え方

(1) MUST と NEVER を意識する。

MUST は、そうならないければ状態、NEVER はあってはならない状況。これらに引っ掛かっていれば、原因を明らかにして修復、対応のアクションを取らなければなりません。

(2) MUST 又は NEVER の要因となる状況

これらの要因の状況は、MUST や NEVER が守られるように監視しておく必要があり、その基準（閾値）は他の要因との重畳も配慮した安全率を見込んでおく必要があります。

(3) その他の事項

既存、既知の似ている物あるいは出来事の一般的な在り様を参考に基準を定めるとよいでしょう。あなた自身あるいは組織の価値観、品質基準があればそれに準じるのがよく、参考となる基準がない場合は、費用や時間的制約の範囲で実現可能なレベルが基準となります。

2. ワーク

前項の (1)～(3) に従って、あなたの清掃に対する基準をハッキリさせてみましょう。

(1)

(2)

(3)